

# あしがら 農の会

## 通信 6月号

### 第134号

### 2013年 6月4日発行

発行

NPO 法人 あしがら農の会

ホームページ

<http://nounokai.com/>

代表 諏訪間直子 080-1047-5304(携帯)

編集 石井 智子 0465-32-1467(TEL/FAX)

bombalurina@savanna.dfi.ne.jp (石井)

## 地場 旬 自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO法人化)  
地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

**農産物の宅配:** 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給の為の野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果実、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

**田んぼの会:** 現在約100家族以上が、あしがら平野の13カ所で自給用の稲を育てています。

**お茶の会:** 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始めました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

**大豆・味噌の会:** 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴づくりから味噌作りを行っています。

**小麦の会:** 月1キロの小麦の自給を目指します。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

## 有機の仲間たち・真の十八「田んぼはもう一つの“フリ森”」

### ブリの森づくりプロジェクト 川島範子 さん

無尽蔵・環境シティを母体とする「ブリの森づくりプロジェクト」は、海の魚ブリを小田原の生態系再生の象徴として、森・里・海の命のつながりを伝える活動をしています。

小田原の森は85%が暗い人工林です。森林が相模湾にとって大きな魚付き林として機能するためには、もっと材の利用を進め、明るく多様な森にしなければなりません。今、関係団体によって手入れ不足の人工林が整備され、久野川やその支流の溪畔林再生や、拡大造林で減少した白銀山ブナ林の再生が行われています。しかし森だけでは、ブリ豊漁時代の環境を取り戻すことは出来ません。昔と今で小田原の風景の最も変わった所は何処でしょうか？ ダムや取水堰もさりながら、宅地化が進み田んぼと水路がなくなったことが大きく感じます。私自身は森が専門ですが、2歳で水の豊富な富水に移り住んだせいか、記憶にある原風景は森ではなく田んぼです。50年前の田園風景です。

私の家は田んぼや用水路に囲まれていて、こんこんと水が溢れる苔むした井戸があり、イモリが赤いお腹を見せて泳いでいました。井戸端では父が、時々用水路から収穫したウナギの腹をビーッとさばき、料理していました。菖蒲の咲く水路にはメダカやゲンゴロウがいて、田園にはあちこちに泉が湧き、夏は蛍を追い蚊帳に入れて眠りました。田植えが近づくと、水路は地域総出で水藻を刈ったり、板堰に溜まった落ち葉を掃除したりして、流れはいつも綺麗でした。思えば当時の暮らしは、実に川と田んぼの恵みに満ち溢れておりました。

さてプロジェクトでは、森里海の命をつなげる活動の一つとして河川清掃に参加しています。先日久野川一斉清掃に参加するに当たり、投げ込まれたタイヤやレジ袋が気になるので川床の清掃をしたいと市に申し入れました。すると・・・「やめてください！危ないから！」と、にべもなく断られてしまいました。大方はたった水深10cmの水流です。ああ、

今はこんなにも人と川とがかけ離れているんだと思いました。

最近では便利な生活と反比例するように農家も田んぼも減り、稲作によって維持されて来た溜め池や、湿地や、水路がいつの間にか消えています。放置竹林が山を浸食し、ミカン畑や元水田がクズ葉に覆われています。ああ何とかしたい・・・とっていると、ある日草茫茫だった久野の棚田に、田植えの風景が蘇りました。それがあしがら農の会の仕事だと知ったのは大分後の事です。

私は刈る、伐る仕事は何かできるので、放置農地の整備や、生物多様性のための採草地の復活を考えるのですが、農に関わる土地はその後も継続して耕作者がなければ手が出せません。この湿潤な国土と風景を守るためには、生業として、農的生活として、田んぼや畑を耕す人が必要です。そんな意志を持ち、地域の田んぼを維持されている、あしがら農の会の皆様には心から敬意を表さずにはられません。

田んぼと農耕は何千年もかけて日本の美しい風土と心を作り上げて来ました。願わくば、自然と一体になって働く農耕民の心に立ち返り、あの美しい風景をもう一度見たいものです。森・里・海の命をつなげる取組とは、実は私達の中にある懐かしい日本人の心を引き出す仕事なのかも知れません。そして田んぼと農耕は生命の連環に必要不可欠の、もう一つの自然であり、もう一つのブリの森ではないかと思ひ始めています。



(川島範子)

【ブリ森ブログ】 <http://blog.goo.ne.jp/burinomori>

【お問合せ】 burimori.p@gmail.com (ブリ森事務局)

小田原市環境政策課 ☎33-1476 fax33-1487